

木村裕子

## 面影

朝の日差しをうけて  
縁側の肘掛け椅子に影がやどる。

あたたかな影はかたる。  
もう会えないと。

途方もない悲しみが  
甦る。

影によって気がついた。  
その存在の奥に光があったことを。

光の粒よ  
どうか、慈悲を運んでください。

あたたかな光で  
痛みを解かしてください。